

ディベート

1. 安定狭心症において冠動脈CTAで閉塞性冠動脈病変が疑われる場合にFFRで評価する

岐阜ハートセンター

川瀬 世史明

安定狭心症患者において、冠動脈CTAで閉塞性冠動脈病変が疑われた場合、侵襲的治療の目的は大きく“予後改善”と“症状改善”の2点に分類される。しかし近年、ISCHEMIA trialをはじめとした侵襲的治療の予後改善効果に否定的な報告が蓄積し、ガイドラインに沿うと多くの症例で治療目的は症状改善が中心となる。一方で、症状改善効果に関しても限界があることが示されている。その背景として、閉塞性病変の有無に関わらず胸痛の原因となり得るINOCA(冠攣縮、冠微小血管障害)の存在が注目されている。閉塞性病変があっても、それが症状の主因とは限らず、複数の機序が重層的に存在する可能性を常に考慮すべきである。

したがって、単一モダリティによる虚血評価のみでは診断が不十分となり得る。侵襲的および非侵襲的評価を適切に組み合わせ、胸部症状の病態を構造的・機能的両面から包括的に評価するストラテジーが重要となる。本ディベートでは実臨床で経験した印象的な症例を提示し、安定狭心症患者における症状の原因診断の難しさと、適切なモダリティ選択・評価方法について議論したい。

略歴

1998年 岐阜大学医学部附属病院 研修医
1999年 国立療養所豊橋東病院 循環器内科
2000年 豊橋ハートセンター 循環器内科
2003年 Massachusetts General Hospital
リサーチフェロー

2007年 Mount Sinai School of Medicine
リサーチフェロー
2010年 循環器内科医長, Gifu Heart Center
2015年 循環器内科部長, Gifu Heart Center
2025年 副院長, Gifu Heart Center

現在に至る

■所属学会・資格：

日本循環器病学会 専門医、CVIT 認定医、日本内科学会 認定医